

第 41 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時:2014 年 9 月 9 日(火)12:00～13:00

場所:京都大学吉田キャンパス、物理系校舎 315 G 会場

参加人数:34名

議事内容

1.塚本部長挨拶

2.平成 26 年度活動報告

2.1 企画報告

2.1.1 企画 A

① 大会・年会における企画セッション関係

・2014 年秋の大会

バックエンド部会企画セッションは、「福島第一原子力発電所事故により発生する放射性廃棄物の処理・処分」として企画したことを報告した。プログラムの概要は以下の通り。

9 月 9 日(火)13:00－14:30	G 会場
座長:(原安協)朽山 修	
(1) 全体概要	(東北大)新堀雄一
(2) 廃棄物情報の整理	(JAEA)高橋邦明
(3) 課題解決に向けた考慮事項	(電中研, アサノ大成基礎エンジ)河西基
(4) 研究開発計画案	(原環セ)大和田仁

・2015 年春の年会(予定)

開催日 :2014 年 3 月 20 日(金)～22 日(日)

場所 :茨城大学 日立キャンパス

企画のアイデア・ご希望を募集中。(10 月中旬まで)

② プログラム編成

2014 年秋の大会のプログラム編成について、以下の編成委員のご尽力を得て行ったことを報告した。

コード	専門分野	WG リーダー	WG メンバー
409	放射性廃棄物処理	目黒義弘(JAEA)	稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(東京大学) 川寄透(日立GE)
410	放射性廃棄物処分と環境	藤井直樹 (原環センター)	稲垣学(NUMO) 稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(東京大学) 三枝博光(JAEA) 川寄透(日立GE) 目黒義弘(JAEA)
411	原子力施設の廃止措置技術	北村高一(JAEA)	田中宏和(三菱マテリアル)

③ 国際会議関係, その他

・学会誌アトモス掲載“バックエンド連載講座”の執筆

前回の連載講座から約 10 年が経過し, 多くの技術的進展がみられ, さらに 3.11 を背景にバックエンドを取り巻く環境も変わりつつあることから, わかりやすい連載記事を企画すること, 及び 2014 年 9 月号から 8 回シリーズでの連載とし, 以下の内容で運営委員のコーディネートにより執筆中であることを報告した。

- (1) 放射性廃棄物の概要
- (2) 放射性廃棄物の管理
- (3) 原子力施設の廃止措置
- (4) 放射性廃棄物の処理
- (5) 放射性廃棄物の処分
- (6) 我が国の地質環境
- (7) 地層処分システムの安全評価
- (8) 将来展望

2.1.2 企画 B

第 30 回バックエンド夏期セミナーの開催結果について報告した。

➤ 日時:2014 年 8 月 6 日(水)～8 月 7 日(木)

場所:福島県郡山市 ビッグパレットふくしま中会議室 B

参加者:83 名

- ・講演資料は部会ホームページ(夏期セミナー)にて掲載予定
- ・講演再録、セミナー参加記が部会誌次号に掲載される予定
- ・優秀なポスター発表に関し、表彰状を授与

バックエンド部会優秀講演賞

東北大学 笹川剛 「処分場周辺におけるケイ酸析出速度の pH 依存性」

- ・アンケート結果の報告。次回テーマ、開催時期、場所等は、アンケート結果を基に検討する。

2.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動, H26 年度週末基礎講座の予告について報告した。

① H26 年度 部会 HP 小委員会活動について

(1) 部会ホームページの管理・運用 (<http://www.nuce-aesj.org/>)

- ・お知らせ・会議案内 による情報発信
- ・部会誌「原子力バックエンド研究」記事・論文等の先行公開, バックナンバーの公開
- ・週末基礎講座・夏期セミナーのプレゼンテーション資料の掲載
- ・部会表彰:過去の受賞者リストの整備、公開 等

(2) バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績 :H26 年度 11 件(4/1~8/31), 配信先 : 492 名(H26.8/31 現在)

お知らせ:メールの配信開始/停止, アドレスの変更は部会員の皆さまからの申告によって行っています。配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。アドレスの変更があった方, メール配信を希望される方は, 広報担当までお知らせください。e-mail : info@nuce-aesj.org (部会ホームページをご覧ください。)

(3) ホームページ小委員会メンバーの紹介

② H26 年度週末基礎講座(予告)

・開催目的・趣旨

放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催いたします。また, 参加者相互の交流の機会を提供するものです。

当分野に興味をお持ちの学生の皆さまや, 新たに業務や研究に携わる方々だけでなく, すでにこの分野でご活躍の方々で, 改めて関連する知識を確認されたい方など, 広くご参加いただけます。

日程:平成 26 年 10 月 18 日(土) 午後 ~19 日(日)

場所:電力中央研究所 狛江地区 第 3 棟 31 会議室

プログラム:調整中

詳細は, 近日中に部会HP, 部会情報メールでお知らせいたします。

2.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」, J-STAGE におけるオンライン公開, 部会誌への投稿原稿の形式指定、部会員の皆様へのごお願いについて報告した。

① 部会誌「原子力バックエンド研究」発行状況

・部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.21 No.1(2014 年 6 月 Web 公開)

巻頭言 バックエンド分野を担う将来の人材育成について :長尾誠也

特集(その1) 第 4 回東アジア放射性廃棄物管理フォーラム(EAFORM)

<会議参加記 1 件、講演再録 7 件>

特集(その2) 2013 年度週末基礎講座

<講演再録 6 件>

会議参加記 2 件

・Waste Management Conference 2014 (WM2014) 山田淳夫

・日本原子力学会 2014 年春の年会 バックエンド部会セッション

「SFEN-AESJ joint session on “Waste Management”」参加報告 吉田崇宏

・次号の予定 Vol.21 No.2 (2014年12月)

・Vol.21 No.1 および Vol.21 No.2 を収録した CD-ROM を12月～1月頃に発送予定.

② J-STAGE オンライン公開状況

・公開中: Vol.9-1～Vol.20-2 (研究論文, 技術報告, 総論等)

・最新号 Vol.21 No.1 からの追加は無し

・今年度中にバックエンド研究の過去の論文全てを登録予定.

③ 部会誌の今後について

・投稿論文が減少傾向にあることについてのアンケート結果と協力依頼がされた。

④ 投稿・査読ご協力をお願い

・部会員のための部会誌継続のために引き続き積極的な投稿/寄稿, 査読への御協力をお願い致します!

2.4 庶務報告

海外発表助成制度、及び研究会支援制度の状況について報告した。

① 海外発表助成制度

・平成25年度実績

上期分(2013年2月10日締切) 応募なし

下期分(2013年8月10日締切) 応募2件

東京大学大学院博士課程3年(MIGRATION 2013 英国)

東京大学大学院修士課程1年(MIGRATION 2013 英国)

・平成26年度実績

上期分(2014年2月10日締切) 応募なし

下期分(2014年8月10日締切) 応募なし

② 研究会支援制度

・平成25年度実績

平成25年度は応募なし

・平成26年度実績

8月末時点で応募なし

2.5 会計報告

平成26年度 8月度までの実績報告

収入実績:

・参加費収入: 夏期セミナー参加費収入で、87%達成

・掲載料収入: 8月度まで実績なし。

・事業活動収入: 部会収入としては、82%達成

・今後の収入予定: 週末基礎講座参加費収入の予定

支出実績:

・支出については、科目ごとに凸凹はあるものの、おおむね計画通りに推移している。

・8月度までの支出実績は、51%、残金1,138千円

3. 審議事項 内規・要領の整備に関して

3.1 「バックエンド部会部会賞表彰内規」の改定

改定趣旨として、「部会誌に掲載された論文を対象する賞を追加。」、「バックエンド部会優秀講演賞は口頭発表のみを対象とすることとし、ポスターセッションについては別の部会賞を設立。」ことを説明。

ご質問:共催する行事での選考方法はどうか。

回答:選考方法は、内規の第4条に規定されている。基本的には、運営小委員会で行う。

総会参加者 34 名の承認を頂いた。

3.2 「旅費・参加費・謝礼要領」の策定

「旅費・参加費・謝礼要領」の策定の趣旨として、「企画セッションや夏期セミナー等に招聘する講師に対する旅費・参加費・謝礼に関する要領が定まっていなかったことから整備する」ことを説明。

ご質問:なし

総会参加者 34 名の承認を頂いた。

以上